



みちしるべ

緑区民生委員児童委員協議会

第 70 号

－ 発 行 －

緑区民生委員児童委員協議会
機関誌編集委員会

発行責任者 会長 松浦 正義

横浜市緑区寺山町 118 番地
930-2328

祝

「機関誌「みちしるべ」
第 70 号」

「みちしるべ」は第 70 号という節目を迎えました。
これからも、民生委員・児童委員、主任児童委員の日々の
活動内容を皆様にお届けしていきます。

わたしの地区の民生委員

地域で活動されている民生委員さんに、委員になったきっかけや日頃の活動についてお聞きしました。

三保地区 児嶋 瑞枝さん

Q 民生委員になろうと思ったきっかけは？

A 同じ地域の民生委員の方に誘われたことがきっかけです。
両親が高齢になり自分のためにもなると思い、やってみようと思いました。

Q 民生委員活動に対する興味はありましたか？

A はい、ありました。
ニュース番組の特集で、東日本大震災で被災した家を訪問する民生委員の活動を取り上げていて、そこで民生委員を知り、「私にも何か出来ることがあるかな？」と関心を持っていました。

Q 民生委員活動を行う上で心掛けていることは？

A 民生委員になってまだ 3 年目で分からない事が多いので、まずは同じ地区の民生委員に相談して、間違いないように心掛けています。

Q 民生委員になって良かったことはなんですか？

A 子どもから高齢者まで幅広い年代の人と接する機会が増え、福祉や行政職員など普段関わることのない人たちと協力する場面も多く、新しい学びがたくさんあることです。

新治西部地区 土屋 康子さん

Q 民生委員になって良かったことは何ですか？

A 地域の方とのつながりができた事、他の民生委員の方との交流ができた事が良かったです。

Q 民生委員になることの不安はありましたか？その不安はどのように解消されましたか？

A 民生委員の活動について、全く知らなかったのととても不安でした。右も左も分からない私に、新治西部地区民生委員の方々が色々教えてくださり、今何とか活動を続けられています。

Q 平日・休日の民生委員としての活動時間はどのくらいですか？

A 午前中仕事なので、活動は午後が多いです。休みの日は、なるべく家族を優先にして、どうしても対応が必要な場合は同地区の仲間に助けていただいています。

Q 今後民生委員としてやりたいことはありますか？

A まだまだ、私が民生委員だと知っている方が少ないので、自治会の行事などになるべく参加をしてみなさんから気軽に声をかけてもらえるように頑張っていきたいと思っています。



緑区民生委員はこれからも、「地域の身近な相談相手」として活動していきます。
引き続き地域の皆様の御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。



緑区民生委員児童委員協議会 機関誌「みちしるべ」

バックナンバーはこちら！▶
(横浜市 web ページへ)



全体研修会に参加して

令和 7 年 2 月 28 日、緑区役所会議室にて緑区民生委員児童委員協議会の全体研修会が行われ、障害理解について、みどり地域活動ホームあおぞら所長の三宅智之様の講演をうかがいました。私の友人のお子さんには、重度の障害のある方がおられます。30 年以上ご両親は懸命な介護をしながら、地域作業所の設立や運営に協力し、障害のあるお子さんの保護者とのネットワークにも心を傾けてきました。そのため、私は、今年度の全体研修会でお話を伺えることに期待を寄せていました。

現代は、都市化が進み、効率化が重視され、サービスは充実してきたものの当事者のニーズには合っていない場合も見られるとのこと。体の不自由さはあっても、環境や周りの理解があれば、差し障りを感じないで生活することも可能。障害は、本人にあるのではなく、「周囲の環境に存在する」という力強い言葉を三宅様からいただきました。

地域作業所をつくるのに奔走していた先人たち。

今は、市内各区に 1 館ずつ設置されている地域活動ホームが、地域生活全般を支援する拠点になっているとのこと。相談の手順を踏み、自分に合った支援にたどり着けるまで、できる人が、できることをしていく大切さが高まっているように思いました。

支援を必要としている方に適切な支援が届かないと、将来への希望をもてないかもしれません。共に生きる喜びを分かち合う社会を実現するために、障害への理解を深め、できることから行動していこうと、あらためて思えた研修でした。

東本郷地区 野村 啓子



令和 7 年 12 月 1 日 民生委員・児童委員の一齐改選が行われます

緑区では令和 7 年 4 月 1 日時点で、215 人の民生委員・児童委員及び主任児童委員の皆様が活動されていますが、今年 11 月 30 日に 3 年の任期が終了し、一齐改選が行われます。

委員の皆様には、これまで熱意をもって地域福祉の向上に貢献していただいたことを心から感謝申し上げます。

引き続き委員をお引き受けいただける方、今期をもって退任される方、それぞれいらっしゃいますが、今後とも地域福祉へのお力添えをよろしくお願いいたします。

自治会長及び連自治会長の皆様には、委員の推薦をお願いしているところですが、推薦手続きにつきましてご不明点等ございましたら、緑区役所福祉保健課運営企画係（☎ 930-2328）までお問い合わせください。

民生委員・児童委員は、地域の身近な相談相手

として福祉に関する様々な相談に応じ、利用できる福祉サービスの情報提供や行政などの関係機関を紹介する「つなぎ役」です。

主任児童委員は子どもや子育てに関することを専門に担当し、民生委員・児童委員、行政、学校、児童相談所などと連携しながら、相談支援をしています。

推薦のお声が掛かった方、初めて候補者となる方は委員を引き受けることへの不安をお持ちかと思いますが、委員活動の中で悩んだときは地区会長や先輩委員、行政と一緒に考えて対応します。ぜひ、委員をお引き受けいただき、一緒に活動していただけることを願っております。

緑区民生委員児童委員協議会事務局
(緑区役所福祉保健課運営企画係内)



緑区社会福祉大会に参加して

3月5日に緑公会堂で行われた「緑区社会福祉大会」に参加しました。

第1部では、社会福祉活動に貢献された方々の表彰がありました。表彰された皆様の活動に改めて敬意を表します。

第2部では、田園調布学園大学の村井祐一教授による講演「地域ではぐくむ あたたかいまち」と、パネルディスカッションが行われました。区民によるアンケート結果を用いた講演会では、日頃から顔の見える関係づくりが必要だと考えている人が多い一方で、ご近所との付き合いはほとんどないという回答も多く、地域コミュニティの希薄化が見られるとお話でした。

パネルディスカッションは、東本郷地区の「朝ごはんを食べる会」・白山地区の「見守りのネットワークづくり」で実際に行っている地域でのつながりづくりの発表でした。両地区の発表はとても興味深く、地域コミュニティの希薄化の解消につながるものだ

と思いました。人と人とのつながりはとても大事であることを再認識し、地域でのつながりづくりに何か少しでもお役に立てればと思います。

新治中部地区
戸川 陽子



主任児童委員活動報告

山下地区はバス・電車、高速道路へのアクセスが良い事もあり、幅広い世帯が安心して暮らしている地域です。近年は戸建て住宅の開発により若い世帯の流入で人口も増加傾向にあります。

山下地区に住む主任児童委員は、地域の子育てサロンのお手伝いや、小中学校と定期的な連絡会を開催等、地域と連携して、子ども達の見守り活動を行っております。

また、地域で開催されるさまざまなイベントにも参加して、地域のさまざまな世代の皆さんとも仲良く過ごしています。「楽しかった」「参加してよかった」「出会えてよかった」と思って頂き、これからもずっと繋がれるよう、お声かけやサポートをしてまいります。

私達2人は、仕事をしながらですが、日々やり

がいを感じて活動しています。

みどりのわ・ささえ愛プランにある『地域のつながりや支え合いのある 誰もが元気で暮らし続けられる街を目指して』の取り組みを胸に、更に元気・笑顔いっぱい活動していきたいです。

山下地区主任児童員 油井 文・吉川 美奈





おめでとうございます!



長きにわたる活動の功績により、多くの民生委員・児童委員が表彰されました。(敬称略)

○緑区社会福祉大会顕彰 (令和 7 年 3 月 5 日 受賞)

長島 豊子 (白 山)

三浦 文子 (山 下)

小林 恵 (新治西部)

石川 多美 (十日市場)

高橋すみ糸 (霧が丘)

佐藤 英一 (長津田)

地区だより 長津田地区

かつて、長津田は大山街道の宿場町でした。現在は数多くのマンションや大型商業施設が建ち、新旧の調和が取れた街です。交通のアクセスも良く、ここ数年の人口は約 40,000 人前後を推移していて、古くから住まわれている方々と新しく転入された方々がバランス良く居住されています。

年齢構成は総人口は 40,274 人に対して 75 歳以上の高齢者は 4,582 人、12 歳以下の児童は 4,321 人となっています。(2024 年 9 月現在)

長津田地区にも少子高齢化の波は押し寄せている様に感じられます。私達は 45 名の民生委員・児童委員と 3 名の主任児童委員で活動しています。声掛けや見守り活動などの活動を通じ地域の皆様との繋がりを深め身近な相談相手となれるよう努めています。また、行政機関・地域ケアプラザ・地区社協・自治会等と連携し「住民とのつなぎ役」としての活動をしています。

先日、地域の高齢者の方とお話をしましたら、週 2 日はグループで体操をやりに通っているとの事。体を動かし、「お元気で良いですね」と話をしたら、「ご苦労様」と言われ、逆に元気をいただきました。別

の日には健康麻雀で脳活を楽しく元気にやっている姿に感心しました。老若男女、皆で元気な街を目指しています。

これからも私達民生委員・児童委員、主任児童委員は、活動を通じ地域の皆様との交流を深め、長津田を「元気で楽しい街に、安心・安全な街に」をスローガンに努めてまいります。

長津田地区 牧野 幸夫



編集後記

時間に追われる忙しい現代人の背景にはスマホの存在が大きく、その普及で人間の脳は情報過多にさらされています。そこであえて「ぼーっとする」ことに注目が集まっています。脳を休ませリラックスすることで情報の整理が行われ、創造力が上がりひらめきが生まれやすくなるそうです。

そこで少しのあいだパソコンやスマホをしまっ、夜空に舞うホタルを鑑賞しに四季の森公園へ出かけてみてはいかがでしょうか。

白山地区 穴戸 靖子